

実験用シロネズミの起源

庫本 高志（京都大・医・動物実験施設）

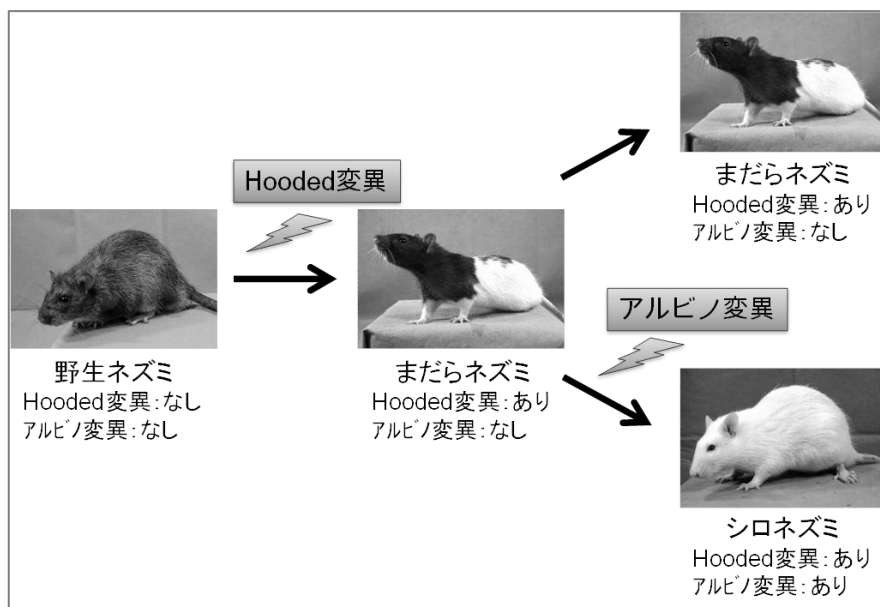
実験用シロネズミ（アルビノラット）は、世界中でひろく用いられている代表的な実験動物です。しかし、その起源は知られていませんでした。

我々の研究グループは、全世界で利用されているアルビノラット 117 系統の DNA を調べ、すべての系統が共通してたったひとつのアルビノ突然変異を持っていることを突き止めました。

さらに、このアルビノ変異は、まだら模様をもったラット（頭巾斑ラット、あるいは、hooded ラット）に生じた可能性が非常に高いことがわかりました。

つまり、ラットが実験動物化された 19 世紀後半、あるいはそれ以前に、まだら模様のラットがまず利用され、その繁殖の過程でアルビノラットが出現したと考えられます。

このアルビノラット（アダムあるいはイブ）の子孫たちは、性質が温順で人にもよくなれたことから、実験動物としてひろく用いられるようになったと思われます。



参考文献 : Kuramoto et al., Origins of Albino and Hooded Rats: Implications from Molecular Genetic Analysis across Modern Laboratory Rat Strains. PLoS ONE, 7(8):e43059, 2012